

委員会のおうづき

震災対策特別委員会最終報告



委員長
下村 勝幸
しむら かつゆき

は、まずは東北被災地の視察を実施しました。

その視察は、本町始まって以来の過酷な視察となりま

した。現地に迷惑を掛けるわけにはいきませんので、片道

約20時間を超える移動にはバスを利用し、往復を車中泊

するとうものでした。そのため、参加者には体力的に自信のない方や病気がちの方

は辞退していただくなどの措置まで取りました。そして

この視察の結果、参加者全員が同じ時間に現地状況を

確認し、同じ空気、同じ風を受け、同じ体験を共有するこ

とができました。この体験が、その後の防災対策を検討する上での大きな礎になつ

たと思います。

その後、懸案であった新庁舎建て替え位置の問題につ

いての調査を開始致しまし

た。外部の委員会を設け、1

年以上の検討を重ねた結果、

現庁舎東側という結論を得

ていた矢先での大震災発生

でしたので、議会としても大

変難しい判断が迫られました。

本特別委員会での議論を

行う中で、やはり実際に町民

の皆さまの生の声をお聞き

しようということ、まずは

津波で大きな被害が予想さ

れる大方、佐賀両地区中心部

の区長さんをはじめとする

代表の方々、また防災関係

者、オブザーバーとして執行

部にもお集まりいただき調

査を行いました。さらに震災

対策へのその後の状況等に

ついて、何度も調査、確認

を行ってきました。そして、

こうした活動により議会と

しての意見や見解をかなり

早い時期に、ある一定の方向

で統一することができ、新庁

舎位置の変更や、執行部が対

策を施すタイミングに合わ

せて、議会としてのバランス

の取れた歩調を生み出すこ

とができたと思います。

また本特別委員会では、地

震、津波対策の専門家である

岡村眞特任教授に当町まで

ご足労いただき、ご講演と、

それまでの調査で生まれた

さまざまな疑問点に対する

お答えをいただきました。そ

して、本特別委員会は2年間

という期限を設けている関

係でこのタイミングでの報

告としたものでありますが、

今議会の一般質問で多くの

議員にも取り上げられてい

たように、今後予想される南

海トラフでの巨大地震への

対策には終わりはありませ

ん。新想定を考えれば、むし

ろ今始まったばかりである

と言っても過言ではないと

思います。長い時間がかか

るとも、黒潮町で掲げている

一人の犠牲者も出さないと

いうこの大目標を忘れるこ

となく努力し、我々議会、執行部、町民が一丸となれば、この難局は必ず乗り越えられるものと信じます。

今年の1月末に、第2次黒潮町南海地震津波防災計画の基本的な考え方の中に15の指針がまとめられました。それらの指針に基づき、一つ一つを確実にこなしながら、予想最大津波高34mの町で犠牲者をゼロにする取り組みを今後も着実に進めていきたいと思ひます。



震災後の気仙沼